

入置申証文之事

一、豆州加茂郡大見郷冷川村百姓五郎兵衛悴文五郎与
 申者、同村医師若尾玄益同道仕諸用有之、先月
 国元出立、江戸表へ罷出用事相濟、右兩人一同ニ先
 月二十五日江戸出立、帰村仕候刻、道中より文五郎儀傷寒
 之様ニ相見へ候間、玄益ニ助抱致生麦村迄参候所、
 熱乱仕候哉、馬より飛下りさまニ文五郎帯シ候脇指
 自身ニ拔、海中へ飛込候候ニ付、私早速文五郎を追欠ケ
 候得共捕兼、依之各々江御頼申、村中人足舩共夥敷
 御出シ被下、漸々右文五郎捕、人家へ御入レ昼夜
 番人御附ケ、其上医師を御懸ケ養生之上則御訴
 被成候上、去ル二十五日より当日迄御村方御世話預リ忝奉
 存候、右熱乱之体ニ相見へ候、尤文五郎拔身之脇
 差海中江捨候所ニ、玄益御村方之百姓中方々相
 尋申候得共、相見へ不申候、殊ニ右脇指用立不申
 候物ニ御座候間、捨置申候、
 右文五郎全傷寒熱乱ニ付、御役所様より御檢使
 御出被遊口書等相濟、右終始私附居候、御村方

此度之厄助御世話之段忝奉存候、右之儀ニ付
 御村方へ対シ少^茂申分無御座候、委細
 伊奈半左衛門様御役所へ口書申上候通御座候、則
 文五郎無疵ニ而当日無相違拙者共へ御引渡シ被成
 請取申候所少^茂相違無御座候、此以後右文五郎
 ニ付如何様之儀出来仕候共、御村方江少^茂御苦勞
 懸ケ申間敷候、仍而文五郎請取証文如件

山本平八郎様御代官所

豆州加茂郡大見郷冷川村

文五郎親五郎兵衛代

文五郎從弟三郎左衛門^印

宝曆四年戌六月五日

組頭 善左衛門^印

名主 定右衛門^印

文五郎同道人

若尾 玄 益^印

武州生麦村

御役人衆中